



清涼

せいりょう



第16号

浄土真宗 本願寺派

清涼山 善教寺

〒663-8184 西宮市鳴尾町 4-10-7

0798 (48) 2224

www.zenkyoji.jp

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

私のために

以前、ご門徒のご法事で『仏説阿彌陀經』(以下、『阿彌陀經』)のお勤めを一緒にさせていただいた時のことです。お勤めの後、お参りの方から、どうして『阿彌陀經』には「舍利弗」という言葉がたくさん出てくるのですか?とのご質問をいただきました。

經典の多くは、お釈迦さまがお弟子からの質問に対して答えていかれるというスタイルで説かれています。けれども、『阿彌陀經』は誰からも質問されていないお釈迦さまが、お弟子である舍利弗尊者へ一方的に語りかけられる、特徴的なスタイルで説かれているのです。

お釈迦さまが舍利弗尊者に呼びかけられること、実に三十五回。お釈迦さまは舍利弗尊者に向かって、阿彌陀さまという尊い仏さまのいらっしゃることに、阿彌陀さまの建立された極楽浄土の素晴らしき、そして浄土には「南無阿彌陀仏」のはたらき一つで往生できることを告げられ、この阿彌陀さまの救いの真実性を、あらゆる

仏さま方が証明してくださっていることを語られていられるのでした。

しかし何故、お釈迦さまは誰からも質問されていないにも関わらず、舍利弗尊者に向かって阿彌陀さまの救いを語っていかれたのでしょうか。実は『阿彌陀經』に説かれる阿彌陀さまの救いこそ、お釈迦さまがどうしても伝えたい教えたからである、と受け止められたのが親鸞聖人でした。ご質問くださった方にそのことをお伝えしますと、

それはいい事を聞きました。だったら『阿彌陀經』を読ませていただく時は、「舍利弗」という箇所には私の名前を入れて読ませていただくのが良いですね。だって『阿彌陀經』に説かれる阿彌陀さまの救いは、私のために説かれた教えなのですから。

とおっしゃってくださいました。親鸞聖人が尊敬された中国の善導大師は、『阿彌陀經』に関する『法事讃』という書物を著されています。この書のなかで大師は、

釈迦如来、身子(舍利弗)に告げたまふは、すなはちこれあまねく苦の衆生に告げたまふなり

(『註釈版(七祖篇)』・五六三頁)

と示されています。『阿彌陀經』に「舍利弗よ、舍利弗よ」とお釈迦さまが語りかけられているのは、実は舍利弗尊者だけではなく、深い苦悩を抱えて生きているこの私に向かって、阿彌陀さまの救いを説かれているのだといわれるのです。

經典の言葉は、私と無関係なものとして説かれたものではありません。自分の力ではどうすることもできない苦悩を抱えて生きている私に、生きる力と依りどころを与えてくださるもの、それがいま私に届けられている「南無(まかせよ) 阿彌陀仏(われに)」の本願の救いでした。『阿彌陀經』に登場する「舍利弗」尊者の箇所に、自分の名前を入れて読んでみる、もしかすると經典の言葉がまた違った響きで聞こえてくるかもしれません。

副住職 赤井智顕



令和6年 8月3日(土)・4日(日)

お盆法要(歡喜会)

かんぎえ

浄土真宗のお盆は、お浄土へ往生され

た大切な方々を偲びながら、仏法(仏さまの教え)を聞かせていただく大切な法要です。今年も多くのご門徒の皆さんにお参りいただき、お勤めすることができました。法話は副住職が担当し、浄土真宗におけるお盆の意義や、懐かしい方々がおられるお浄土についてのお話をさせていただきました。

暑い中、2日間・

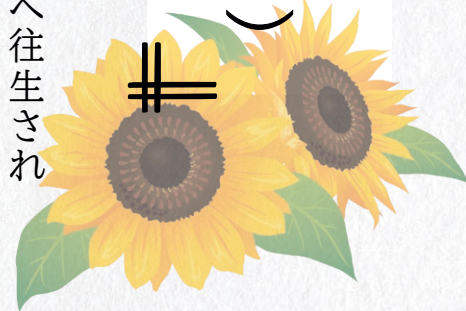
計5座(回)の法要

に、多くの方々のお参りをいただきました。ありがとうございました。

いました。



▲副住職の法話



秋季彼岸会

しゅう

き

ひ

がん

え

令和6年 9月16日(月・祝)

彼岸(「彼の岸」とは、迷いの世界(「此の岸」に対するさとりの世界。浄土真宗の教えに縁ある私たちにとっては、阿弥陀さまのお浄土といただく言葉です。お念仏の先人方はこのお彼岸のご縁を通して、お浄土へ先立って往かれた方々を偲んできました。

当日は、信行寺(用海町)に入寺しました善教寺住職の次男・四夷法頭師のご法話をお聴聞させていただきました。



▲四夷 法頭先生のご法話



令和6年 11月4日(月・祝)

報恩講

ほう おん こう



報恩講は浄土真宗を開かれたご開山・親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご生涯を偲びながら、お念仏の教えを聞かせていただく、浄土真宗のお寺で最も大切な法要です。

当日は大阪大谷大学名誉教授の梯信あき先生からお話を聞かせていただき、お念仏のひと時を過ごさせていただきました。午前・午後の二回の法要にたくさんのお参りをいただきました。



▲梯 信曉先生のご法話

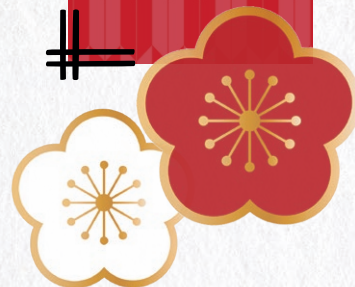
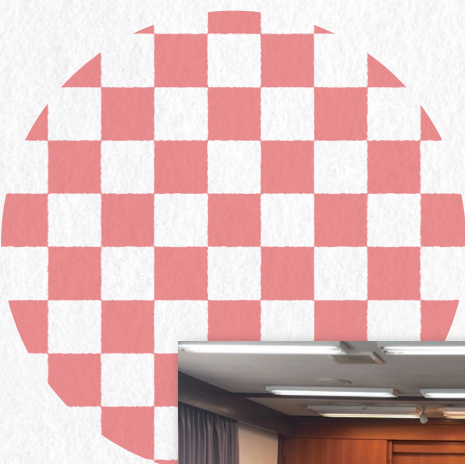


令和7年 1月1日(水)

元旦会

がん たん え

今年もご門徒のみなさんと一緒に新年をお迎えました。住職・副住職の法話に始まり、最後はお参りのみなさんと一緒に、お正月の歌をうたいました♪





しゅん

き

ひ

がん

え

春季彼岸会

令和7年 3月15日(土)



お彼岸は“彼の岸（浄土）”へ往き生まれてかれた大切な方々を偲びながら、今を生きる“私”自身が、仏法（仏さまの教え）を聞かせていただく大切な仏事です。塚本一真師をお迎えして、ご法話を聞かせていただきました。



▲塚本 一真先生のご法話



灘中学校 社会実習体験

令和7年 3月29日(土)～30日(日)



灘中学校（神戸市）から中学2年生の生徒さん4人が、春休みの社会実習体験で善教寺に来てくれました。

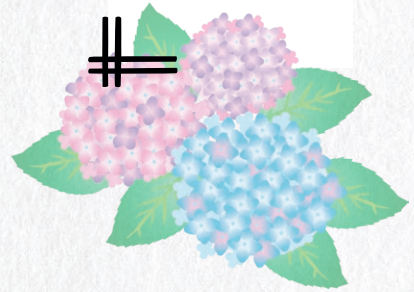
仏参（お参り）やお聴聞、住職が園長を勤めるパドマ・ナーサリースクールの見学や写経体験、地域のご門徒との交流会など、盛りだくさんの二日間を過ごしていただきました。今回の体験が春休みの良き体験になっていれらうれしいです。





令和7年 6月14日(土)

永代経法要



今年の永代経法要も、多くのお参りのみなさまとお勤めすることができました。永代経のご懇志をご進納くださいましたご門徒にもお焼香を賜り、仏さまにお参りいただくお念仏のひと時を、共に過ごさせていただきました。

当日は中村 英龍師のご法話をお聴聞させていただきました。



▲中村 英龍先生のご法話



▲婦人会のみなさんが準備してくださいました



西宮 たねまき寺子屋



たねまき寺子屋は、歴史を動かした人、世界を変えた人など、目標にしたくなる大人の生き方を子どもたちに学んでもらい、

これからの未来をつくる子どもたちに「あんな大人になりたい」という憧れを育てる無料塾です(寺子屋の講師は地域の大人が、毎月リレーで担当しています)。毎月第4土曜日・16時〜17時、善教寺会館にて開催していますので、お子様やお孫様と一緒ににお越しくださいばうれしく思います。



お寺の風景

北山門の寺号額



南山門の天人図の扉

善教寺パドマ合唱団

コーラス団員
募集中

毎月2回・木曜日の13時からコーラスの練習をしています。どなた様も入団をお待ちしています。歌うことは健康には勿論のこと、仏教讃歌は歌詞もメロディーもとっても素晴らしいので、心の健康にも良いですよ♪

(詳しい日程に関しては直接、善教寺までお問い合わせください)



▲コーラスのご指導をしてくださっている東塾 裕子先生

善教寺パドマ合唱団 忘年会

令和6年
12月22日
(日)

コロナ以降、中断していました合唱団のみなさんとの忘年会を久しぶりに開催しました。ビンゴゲームや食事をして楽しく過ごしました。今年も一年、本当にお疲れさまでした♪



神戸別院 コーラスフェスティバル

令和7年
3月1日
(土)

神戸別院で行なわれたコーラスフェスティバルに、善教寺パドマ合唱団が出演しました。

善教寺仏教壮年会・婦人会のご案内

善教寺仏教壮年会・婦人会への加入はいつでも募集中です。ご連絡をお待ちしています。仏さまのご縁で結ばれたみなさんと、お寺でのひと時を過ごされませんか？



合同墓「追憶廟」▼



善教寺 納骨堂・合同墓のご案内

ご門徒のみなさまからのご要望をいただき、長い歳月がかかりましたが、善教寺「光の納骨堂」ならびに合同墓「追憶廟」が完成しました。

「光の納骨堂」の設計・監修は、世界的にも著名な建築家であります安藤忠雄氏によるものです。本当にモダンで美しい納骨堂に仕上げていただきました。納骨堂の中央にご安置しています阿弥陀如来像は、平安佛所・仏師の江里康慧氏と京都・陶額堂によって造仏された、世界でもめずらしいひかり輝くガラス仏をお迎えしています。また各納骨壇には、ご本山である西本願寺からお迎えしたご本尊を安置しています。

「光の納骨堂」は、完全屋内型・全面バリアフリーで、どなたでも安心してお参りしていただけます。ぜひこの場所で、大切な方に掌を合わせていただき、心温まるひと時をお過ごしください。なほ納骨堂・合同墓に関する申し込みやパンフレットの請求、ご質問等ございましたら、善教寺までお問い合わせください。

参詣者の声①

何より家から近く、お参りしやすいのでとても喜んでいきます。お陰さまでたくさん掌を合わすご縁をいただいています。またお参りに来たいと思います。

参詣者の声②

落ち着いた空間で、ゆっくりお参りすることができます。先日も家族みなでお参りさせていただきました。追憶の間に安置されている、ガラスで造られた阿弥陀様のお姿が、いつ見てもとてもキレイで感動しています。

お寺のホームページ

お寺からのお知らせや今後の予定などに関しては、善教寺のホームページ（www.zenkyoji.jp）でも情報を公開しています。ぜひご覧ください。



QRコードよりアクセスいただけます。

新発意の成長記

※「新発意」は、「しんぼつち」や「しんぼち」と読みます。元々は発心して僧になったばかりの人や、仏門に入ってから間もない人を意味していましたが、それが転じてお寺の子どもをさす言葉としても使われています。

副住職夫妻の長男・尊^{たかあき}頭は11歳。今年の4月から小学5年生になりました。次男・顕^{けんし}至は7歳になり、今年の4月から小学校に入学しました。

あんなに小さかった子ども達が、今では二人仲良くランドセルを背負って、小学校へ通学しています。長男はますます野球の熱が上がり、二つの野球のクラブチームに所属して、練習と試合に忙しい日々を送っています。次男も兄と一緒に、キャッチボールやバッティングの練習をしています。

お寺で法要がとまる時は一緒にお参りしていますので、みなさまには今後ともお育てくださいますよう、宜しくお願いいたします。



聖典勉強会

副住職が『歎異抄』の内容を、初めからゆくり読み進めています。現在、日本でもっともよく読まれている宗教書は、仏教では『歎異抄』、キリスト教では『聖書』といわれている様に、『歎異抄』は古今を問わず、多くの方々に読み継がれてきた、浄土真宗の大切な聖典です。

「どんな内容かな？」と、少しでもご興味やご関心をお持ちの方は、この機会にぜひお越しください。日程に関しては善教寺のホームページをご覧ください。くか、直接お問い合わせください。



自照社コラム



昨年の5月から仏教書の出版社である自照社のホームページにて、副住職のコラム「この道をゆけば」の連載がはじまりました。奇数月の1日に更新予定ですので、有縁のみなさまにお読みいただけたら幸いです。

<https://jishosha.shop-pro.jp/>

広島仏教学院 オンライン入門講座



広島仏教学院の「仏教・真宗 オンライン入門講座」に副住職が出講しています。今年度は「正信偈」の講座を担当しています。

<https://www.gakuryo.jp/>

お寺の関連書籍



副住職が執筆した書籍、『「帰三宝偈」のころ』が自照社から出版されました。「帰三宝偈」は浄土真宗のお勤めに用いられる偈文で、親鸞聖人の尊敬された善導大師の書かれたものです。ご興味のある方は善教寺までお問い合わせください。

副住職 からの報告



今年の4月から、大阪にあります相愛大学人文学部の准教授に着任いたしました。善教寺の日々の法務とともに、大学での教育活動ならびに研究活動にも力を注いでまいります。